

# 在来マス類種苗生産試験

(アマゴ種苗生産配布事業)

團 昭紀・尾田文治

## 目 次

平成5年10月に採卵し、繰り越した稚魚を継続飼育し、春稚魚(平均体重4.3g)として4月現在82,000尾を生産した。この内、平成6年5月に河川放流用として50,000尾、養殖用種苗として14,600尾を有償配布した。

採卵用親魚は、平成4年10月に採卵し、親魚候補として継続飼育し、平成6年2月、3月にせっそう病ワクチンの防疫処理を施して10月まで養殖した。なお、採卵時における雌親魚の平均体重は400gであった。

採卵には、雌魚1,630尾から1,470,000粒(1尾平均902粒)の卵を得て発眼卵950,000粒(発眼率65%)を生産した。このうち民間養殖業者に810,000粒を有償配布した(表1)。

小歩危淡水養魚場における飼育水は、現在2水系の水が使用され、このうち、1号水系は、谷合いの表流水を集めて使用し平成6年4月～平成7年3月における水温は7.9～17.8の間で変動した。2号水系は、小河川の表流水を取水し、水温は2.9～23.9の間で推移した。水系としては例年同様1号水の方が水温変動も少なく水量的にも安定していた。

表1 平成6年度アマゴ採卵状況

採卵用親魚(雌)	1,630尾
〃(雄)	1,120尾
採卵数	1,470,000粒
1尾当たり採卵数	902粒
発眼卵数	950,000粒
発眼率	65%
養殖用種卵(売却)	810,000粒
春稚魚用発眼卵	140,000粒
〃浮上魚	120,000粒
浮上率	85.7%